



COCO
Community & Cooperative

No.58

2024年8月8日
発行所 / COCO湘南
〒252-0804 藤沢市湘南台 7-32-2
Tel:0466-46-4976
Fax:0466-42-5767
発行者 / 小川泰子

COCO湘南のHP

www.cocoshonan.org/



尊厳ある生涯を求めて

NPO法人 COCO 湘南
理事長 小川泰子



2024年5月31日、特定非営利活動法人COCO湘南の第26回総会を終えました。

設立から25年、この間の社会の変化は想定をはるかに超える国内外の状況に、私たちの暮らしは老後不安ばかりか、子どもを産み育てることも、何らかの障害をもって生きることも、若者がその未来を拓く環境も、誰もが不安ばかりが大きくなる社会の中にいます。

「誰一人取り残さない」を求めて日本の社会保障制度は国民一人ひとりの合意形成の下誕生し、世界でも高く評価される制度として今日まで続いています。そして、高齢・少子社会の人口構造を世界が注視する「常に先頭」を走り、その失敗と成功に各国が国家政策を考える貴重な「データ」となっています。

しかし、当の日本において、国民の合意形成によって生まれた社会保障制度は今、「保障のない制度」へと展開していることにあらゆる世代の命が不安を増大させている状況にあります。

当法人設立者の西條節子さんが遺された多くの文書の中には常に「尊厳ある生涯を求めて」というメッセージが込められています。高齢者だけのことではなく、全ての命に思いを馳せてのものです。そのためには「自立と共生」という基盤が不可避であるというメッセージでもあります。

本来、日本の社会保障制度は「自立と共生」の仕組みのはずです。2024年度の社会保障制度改革は、介護保険制度、医療保険制度、そして障害福祉制度のトリプル改定となりました。しかし、社会保障というにはあまりにも市場経済競争の視点が強く、「自立と共生」を実現する自助も、共助にも、その手段を見つけないことができない、公助からも「切り捨てられるの？」と思うほどのものです。

グループリビングCOCO湘南台にお住まいだった方が4年余りにわたる闘病（胃がん）生活の末、我が家であるCOCO湘南台でその生涯を閉じられた時書かれた「地域に生きて、住みなれた家で終わりたいー尊厳ある生涯を求めてー」を改めて読み直して、今思うのです。「夢のよう」な話、だけど、実現できた事実記録。だったら今、何をしたらいいのか？

「おひとりさま」の言葉の生みの親である上野千鶴子さんが、“その人の思いに最期まで寄り添うキーパーソン”と話されていたことを思い出します。

グループリビングのコンセプト「自立と共生」は、互いをキーパーソンとする「自助と共助」の仕組みです。残る「公助」よ！しっかり役割を果たしてください！